

屋久島の杉 香り高いお茶に

地元の精油メーカー開発・限定販売

屋久島で育った杉の香りが楽しめるお茶が誕生した。縄文杉への道中にあり、かつての伐採で屋久杉の丸太を運んだトロッコ用の線路に敷く杉板の削りくずを使い、名産のタンカンなどとブレンド。縄文杉登山の記念にと島の精油メーカーが「トロッコ茶」と名づけ、大型連休を前に限定販売を始めた。

発案したのは屋久島の香りづくりに取り組む「やわら香」。活用が難しい間伐材や、色や形が悪くて販売できないタンカンなどを生かして、アロマオイルの製造を続けている。

きっかけは、縄文杉の登山道にある安房森林鉄道の枕木の上に、木道用として

敷く杉板を加工した有水製材所から、「削りくずを精油に使えないか」と相談されたことだった。間伐材から作られた板は長さ2枚、幅25センチ計2700枚。板の上に滑り止め用の溝を掘ったことで大量の削りくずが出たが、使い道がなかったという。

ハーブティーを販売した経験がある、やわら香店長の妹尾尚美さん(36)は、杉のお茶づくりを模索してい



限定販売の「トロッコ茶」



杉やタンカンなど4種類のチップをブレンドする妹尾尚美さん



トロッコ茶の原料になった杉板の削りくず



安房森林鉄道の枕木の上に敷かれた杉板。いずれも屋久島町

木道用の板の削りくず 名産タンカンなどと配合

た。そこで、精油を抽出した後の削りくず2トンを乾燥させてチップに細断。同じく精油抽出後のタンカンとポンカンの皮、間伐した杉の枝葉とブレンドしてみた。

すると、杉の幹と枝葉の香りをベースに、かんきつ系のミカンが香る「茶葉」が完成。ティーポットに入れて、お湯を注いで5分間待つと、「ほんのりと香る、やさしい味わい」に仕上がった。

精油用に間伐材のチップを納めている同製材所の有木大吾さん(34)は「捨てるつもりだった削りくずが、まさかお茶になるとは……」と驚き、さらなる間伐材の活用に期待する。

東京から観光で島を訪ね、試作品を味わった大門八穂さん(69)は「杉の香りが膨らむ感じで、リラックasできる。寝る前に飲むのがいいかも」と話した。

島の恵みを余すことなく生かしたトロッコ茶。妹尾さんは「杉の香りが広がるお茶を飲みながら、縄文杉登山の思い出を語り合ってほしい」と期待している。

商品はティーバッグ5袋入りで、1箱1千円(税込込み)。400箱の限定販売で、同店のほかにウェブショップからも購入できる。問い合わせは、やわら香(0997・42・0109)へ。

(屋久島通信員・武田剛)